

令和3年度 環境の学校連続講座実施報告

事業名	環境の学校
活動概要	市内在住・在学・在勤の方が参加 申込は 26 名、25 名が修了。発表会には 14 名が参加。 ・内容説明：地球温暖化をはじめとするさまざまなジャンルの環境問題への理解を深めるとともに、講座で得た学び・気づきを発信していく。

★チラシ



活動スケジュール・内容		
日時	タイトル・概要	講師
Day1 9月19日(日)	私たちの暮らしとSDGs ★私たちの暮らしの身近にあるものからSDGsを「自分ごと」としてとらえ、取り組みを考える。	飯田 貴也 (新宿環境活動ネット代表理事)
Day2 10月16日(日)	地域に愛し愛される、地産地消の取り組み ★市内で「地産地消」に取り組まれている生産者等の話を通して、環境まちづくりの可能性を探る。	麻生 日佐子(吉祥寺まち案内所 コンシェルジュ実行委員会 代表) 榎本 一史(榎本農園経営) 森 友絵(リバルテ東京本店 店長) 奥山 昌徳(JA 東京むさし武蔵野店)



Day3 11月20日(土)	武蔵野市の水とみどり ★神田川の源流がある井之頭公園を散策しながら、水循環を学ぶ。	内田 道行 (水の学校サポーターズ・サロン代表)
Day4 12月26日(日)	“食”を起点に考えるエシカル生活 ★エコ科学実験を通して、健康や環境に配慮したエシカル生活を探る。 むさしのエコre ゾート紹介 講座終了後、武蔵野クリーンセンターガイドツアー(任意)	金子 浩子 (キッチンの科学プロジェクト代表) 山村 宜之 (むさしのエコre ゾートディレクター)
Day5 1月23日(日)	武蔵野市の水とみどり② ★武蔵野市の歴史や地形の話等を通して、人と水やみどりのつながりを考える。 やりたいことを、地域につなげる ★振り返り、発表会の打ち合わせ	山村 宜之 (むさしのエコre ゾートディレクター) 
Day5・5(任意) 2月13日(日)	発表会の打ち合わせ オリジナルプログラム体験	山村 宜之 (むさしのエコre ゾートディレクター)
Day6 3月6日(日)	第1回むさしのエコ・チャレンジ 受講生による発表	

参加者の学び・感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・各回受講後に行ったアンケートからは、「コロナ禍で、『巣ごもり』の状況＝車等の移動が世界的に少なくなった事により、二酸化炭素排出量が大幅に減少した等具体的な例がとてもしなれた」「減多に聞けない市内の農家の方から環境負荷の少ないシートを使用している話を聞いて、これからは産地を意識してしたい」というような環境問題に前向きに取り組もうする感想・意見が多く挙げられた。 ・アンケートの満足度は、4.9(5点満点)という高い評価を得られた。 ・一方では、「フィールドワークの講座は、もっと時間があるといい」「発表会での発表内容や方法を決めるに苦労した」等の課題もあがった。
------------	--

振り返り・課題

今後の展望

■全体について

・コロナ禍でも、全5回の講座が対面実施できたおかげで、受講生が講義を直に受けることができ、ワークショップも無事実施することができた。これらの実体験を通して、より講座内容への理解を高めることができ、深い「学び」を得ることができたかと考えられる。

・前年度に比べ、毎回ワークショップを取り入れた内容となり、受講生にも好評だった。座学とワークショップがバランス良く組み立てられていた。

・毎回グループワークの時間も取り入れることで、回を追うごとに、受講生同士のつながりが深まっていった。受講生の環境に対する意識や取り組もうという意欲が強まっているのを感じ、行動変容への発展も見られた。

・10代から70代と幅広い年齢層が参加したが、年代を超え、さまざまな意見を活発に交わす姿が見受けられた。お互いにいい刺激を受け、それが受講生同士の結びつきを深めた理由のひとつと考えられる。

■発表について

受講生が、前半と後半グループに分かれて、発表した。

発表会事前に集まり、(Day5.5)内容や進行を相談して決定。

【前半】

Day 1～Day 5までの講座概要・感想

★講座の様子 (Day4：玉ねぎの皮染色体験)



【後半】

受講した講座で特に感銘を受けた Day 2「地産地消」を取り上げ、おススメしたい内容を「地産地消」に関する環境問題を交えて、フードマイレージを例に輸送の際に生じる二酸化炭素排出による環境負荷の軽減効果や地元の農産物等の消費による経済効果を高める「環境まちづくり」を提案した。

★資料 武蔵野市農産物直売所マップ



★飛行機による輸送が一番
二酸化炭素排出量が多い。

二酸化炭素排出係数

鉄 道 : 22 g/トンkm
国内船舶 : 40 g/トンkm
国外船舶 : 21 g/トンkm
トラック : 180 g/トンkm
航 空 : 1461 g/トンkm

武蔵野市

野菜

	作物	収穫量 (t)	作付面積 (ha)
1	ダイコン	94	3.0
2	キャベツ	50	1.5
3	ニンジン	47	1.7
4	コマツナ	40	2.8
5	パレিশヨ	35	2.4

★市内で一番収穫量が多いのはダイコン。生産量は予想以上に多い。

■課題・今後の展望

・受講生が満足する講座内容だったことはよかったが、受講生には発表会の位置付けの説明はしていたのに、受講して満足している方が大半で、認識のズレが見受けられた。

・受講生には、自分達が得た情報や学びをアウトプットしていきたい、そのためにはどう他の人が興味をもてるような内容にすればいいのかな等を自らが考え発信していこうと思うような流れをつくる必要があると感じた。

・施設の運営・企画を担う人材育成が当講座の最終目標なので、講座で得た学びを「発表」という形で発信するのではなく、次年度の受講生や来館者に向けてサポートするという別のスタイルでも検討したい。

・今年度は、さまざまなテーマの環境問題を学び、気づきや意見を世代を超え忌憚なく交わせる場づくりができたと思う。このような体験ができる講座はほかにはないので、それを強みにして次年度は受講生を増やしたい。